

## 公害病の教訓を次世代へ

2月15日、「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を開催しました。開  
会挨拶で石井知事は、昨年12月17日の被害者団体と原因企業による「神通  
川流域カドミウム問題の全面解決」に関する合意に触れ、二度と悲惨な公害が  
繰り返されることのないよう願うとともに、健康調査への積極的な受診を呼び  
かけました。続いての学習発表では、富山市内の小学生と富山大学の学生、4  
グループから、イタイイタイ病の学習状況や研究成果などを発表していただき  
ました。このうち2つの小学校は、これまでの先人の努力や苦労に感謝する思  
いを作文や寸劇で披露されました。その後、鏡森館長による資料館事業報告  
を行い、午前の日程が終了しました。

午後は、作家で環境保護活動家のC. W. ニコル氏による「心に木を植える」  
と題した講演会を開催。自身の経験を基に、「自然を育むと水、緑、人などの生  
命が維持される。また、自然は人の心をも癒す大切なものである」との話があ  
りました。この後、四大公害病の資料館長等によるシンポジウムでは、会場か  
らのご意見もいただきながら、資料館に求められる「情報発信力」について話  
し合いました。



春の特別企画展「萩野昇の生きた時代」を開催します

イタイイタイ病の原因究明と治療に大きく貢献された萩野昇氏。これまでに来館された方々からも詳しい解説を求める声が多く寄せられていました。生誕百年を迎えるにあたり、その功績を写真や愛用品等の展示、関係者による鼎談で振り返ります。また、カドミウムによる腎臓障害と骨軟化症との関係を研究された富山大学医学部の学生、馬場さんによる研究発表も予定しています。

この機会にぜひ、ご来館ください。

■写真・愛用品等の展示

期間：4月26日（土）～5月6日（火・振休）

場所：富山県立イタイイタイ病資料館 交流学習ルーム

■研究発表及び関係者による鼎談

日時：4月29日（火・祝）

① 研究発表：13:30～14:30

② 鼎談：14:30～16:00

場所：とやま健康パーク 第1研修室

■萩野 昇氏（大正4（1915）年～平成2（1990）年）

医師（萩野病院院長）。富山県婦負郡熊野村（現・富山県富山市婦中町）萩島の医師の家に生まれる。金沢医科大学（現・金沢大学医学部）で病理学を専攻。昭和15（1940）年卒業後、同病理学教室の研究生となる。同年10月に応召入隊。昭和21（1946）年復員し、実家の「萩野病院」を継ぐ。

身体の痛みを訴える中高年女性の患者が異常に多いのに疑問を持ち、原因と治療法の究明に取り組む。昭和32（1957）年、イタイイタイ病鉍毒説を発表し注目を浴びる。その後、昭和36（1961）年、小林純岡山大学教授や吉岡金市農学博士らとの共同研究により、三井金属鉍業(株)神岡鉍業所の廃水中のカドミウムが原因であるという説を発表した。昭和43（1968）年5月、国もこれを認め、イタイイタイ病は、公害病と認定された。

イタイイタイ病裁判では、医師の立場から患者の苦痛の実態を証言した。

イタイイタイ病患者の治療に献身的に尽くし、患者から慕われ、数々の賞を受けた。平成2（1990）年病没、享年74歳であった。